

高度先進医療の新規技術の概要について

(平成17年5月25日 中医協報告用)

技術名：末梢血幹細胞（CD34 陽性細胞）による血管再生治療

○ 適応症：慢性閉塞性動脈硬化症およびバージャー病
（重篤な虚血性心疾患や脳血管障害を有する例を除く）

○ 技術の概要：

慢性閉塞性動脈硬化症等の血管障害の患者の四肢に、末梢血幹細胞を局所注射することによって、末梢血管の再新生を図る技術。具体的には、患者に G-CSF を数日間皮下注射し、末梢血中の白血球が十分増加したところで、末梢血中から血液幹細胞（CD34 陽性細胞）を採取し、血行障害のある四肢に筋肉注射を行う。血管形成術が不可能な、末梢動脈の病変症例に対しても有用である。既に高度先進医療として承認されている骨髄からの幹細胞採取と比較しても、全身麻酔を要さず患者の負担が少ない点で優れている。

○ 申請医療機関：特定医療法人 北楡会札幌北楡病院
（北海道札幌市・229 床）

○ 実施科：外科

○ 症例数：35 例

○ 申請日：平成 15 年 9 月 30 日

○ 費用の例（入院 40 日間）：（高度先進医療分）31 万円
（ 特定療養費分 ） 55 万 4 千円

技術名：末梢血単核球移植による血管再生治療

- 適応症：慢性閉塞性動脈硬化症およびバージャー病
(従来の内科的、外科的治療が無効のものを対象とし、
3年以内の悪性新生物の既往、未治療の糖尿病性網膜
症は除く)
- 技術の概要：
慢性閉塞性動脈硬化症等の末梢血管障害のある患肢に対して、
末梢血単核球を局所注射することによって、末梢血管の再新生
を図る技術。具体的には、自動血液成分分離装置を用いて末梢
血から末梢血単核球を採取し、患肢に筋肉注射を行う。血管形
成術が不可能な、末梢動脈の病変症例に対しても有用である。
既に高度先進医療として承認されている骨髄からの幹細胞採取
と比較しても、全身麻酔を要さず患者の負担が少ない点で優れ
ている。
- 申請医療機関：千葉大学医学部附属病院（千葉県千葉市・835床）
- 実施科：循環器内科
- 症例数：38例
- 申請日：平成17年2月25日
- 費用の例（入院84日間）：（高度先進医療分）9万5千円
（特定療養費分）177万5千円

技術名：副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法

○ 適応症：二次性副甲状腺機能亢進症

○ 技術の概要：

副甲状腺に活性型ビタミンDを局所注入することにより、副甲状腺内の活性型ビタミンD濃度を極めて高くすることによって、副甲状腺機能を正常化させる治療法。6日間連続で注射を行う。

従来の活性型ビタミンDの静脈注射や内服治療と比較して、少量の活性型ビタミンDにより効果が得られるため、静脈注射や内服治療では治療が困難であった症例に対しても有効である。また、副甲状腺への経皮的エタノール注入療法と比較しても、エタノールの漏出に伴う神経麻痺の危険性がなく、安全である。

○ 申請医療機関：和歌山県立医科大学附属病院
(和歌山県和歌山市・800床)

○ 実施科：血液浄化センター

○ 症例数：28例

○ 申請日：平成16年6月22日

○ 費用の例（入院11日間）：（高度先進医療分）12万4千円（6回）
（特定療養費分）52万3千円